

奈良県感染症情報

平成 28 年 第 44 週(10 月 31 日～ 11 月 6 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題「マイコプラズマ肺炎流行中」

❖ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	9.15	(6.68)	↑	↑↑	↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	2.06	(2.12)	→	→	→	↓
3	流行性耳下腺炎	2.00	(0.97)	↗	→	↑	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.29	(1.26)	→	→	→	↑↑
5	手足口病	1.18	(0.50)	↑	↗	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

❖ 県内概況 ❖

感染性胃腸炎の報告が増加しています。特に中和保健所西部(旧葛城保健所)からの報告が多くなっています。ノロウイルスは非常に感染力が強いため、集団生活の場では特に手洗いを励行しましょう。流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は、例年より高いレベルで推移しています。また、マイコプラズマ肺炎も、例年より報告が多い状態が続いています。咳が長引くようであれば、早めに医療機関に受診するようにしましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

インフルエンザ予防接種で外来数は増加している。

先々週頃より感染性胃腸炎が急増している。保育園児を中心に成人までノロウイルス胃腸炎が目立つが、発熱はあっても1日程度、嘔吐も同様で近年の軽症傾向は持続している。中学生以上ではキャンピロバクター等の細菌性胃腸炎もみられる。

RSウイルスによる気管支炎も保育園児で流行が続いている。

1日だけ発熱があり、口内炎を伴うが四肢の発疹は小さい手足口病も保育園児で再び増加している。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加中。インフルエンザはまだ見られず、外来は混雑と言う程ではない。咳嗽の多い種々の上・下気道炎が多く、RS陽性例、典型的レ線像のマイコプラズマ例もある。

感染性胃腸炎が増加、ノロ陽性例もある、ロタ陽性例はまだない。流行性耳下腺炎が僅かずつまだ続いている。その他伝染性紅斑、A群溶連菌感染症が少し。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

呼吸器感染症は依然多い。RSウイルス感染やマイコプラズマ感染症が目立つ。熱のほとんどない例ではアレルギー性疾患との鑑別が困難。胃腸炎も増加、ノロウイルス陽性例もあり。ムンプスは減少、夏カゼ様疾患もほとんど見られなくなった。莓舌や扁桃所見なく咽頭発赤のみで溶連菌陽性例が多い。

外来ではインフルエンザ陽性はでていないが、南部下市町では流行している。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 28 年 第 44 週 10 月 31 日 ~ 6 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	14	14	11	10	2	3	
インフルエンザ	3 (0.06)	2 (0.14)			1 (0.10)			
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2	
RSウイルス感染症	70 (2.06)	10 (1.11)	13 (1.44)	25 (3.57)	22 (3.67)			
咽頭結膜熱	10 (0.29)	1 (0.11)	2 (0.22)	3 (0.43)	4 (0.67)			
A群溶連菌咽頭炎	44 (1.29)	4 (0.44)	7 (0.78)	2 (0.29)	25 (4.17)		6 (3.00)	
感染性胃腸炎	311 (9.15)	76 (8.44)	52 (5.78)	50 (7.14)	128 (21.33)	4 (4.00)	1 (0.50)	
水痘	4 (0.12)	1 (0.11)	1 (0.11)	1 (0.14)	1 (0.17)			
手足口病	40 (1.18)	13 (1.44)	3 (0.33)	5 (0.71)	19 (3.17)			
伝染性紅斑	3 (0.09)	2 (0.22)		1 (0.14)				
突発性発しん	15 (0.44)	5 (0.56)	3 (0.33)	3 (0.43)	4 (0.67)			
百日咳								
ヘルパンギーナ	2 (0.06)		1 (0.11)		1 (0.17)			
流行性耳下腺炎	68 (2.00)	15 (1.67)	10 (1.11)	37 (5.29)	4 (0.67)	1 (1.00)	1 (0.50)	
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	10 (1.00)	1 (0.33)	3 (1.00)	2 (1.00)	4 (2.00)			
基幹定点数	6	1	2	1	1	0	1	
細菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)					
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	10 (1.67)	1 (1.00)	7 (3.50)		1 (1.00)		1 (1.00)	
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市3、郡山1)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	アメーバ赤痢2件(郡山2) 侵襲性肺炎球菌感染症1件(中和1)

❖ 第44週のトピックス ❖

◆インフルエンザの感染を防ぐポイント「手洗い」「マスク着用」
「咳(せき)エチケット」

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/200909/6.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

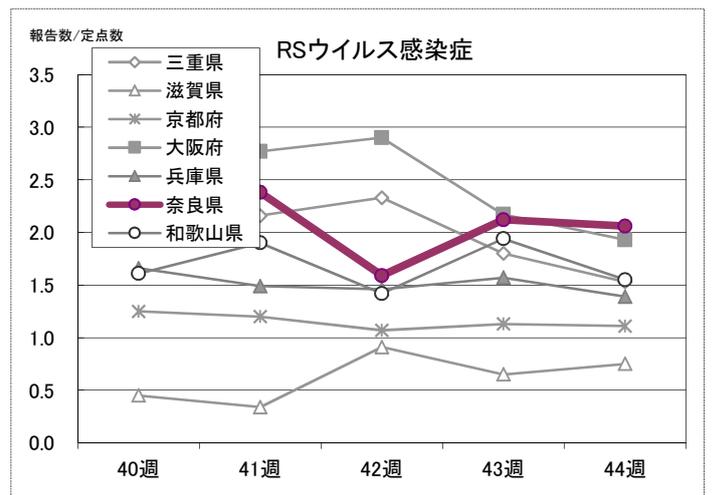
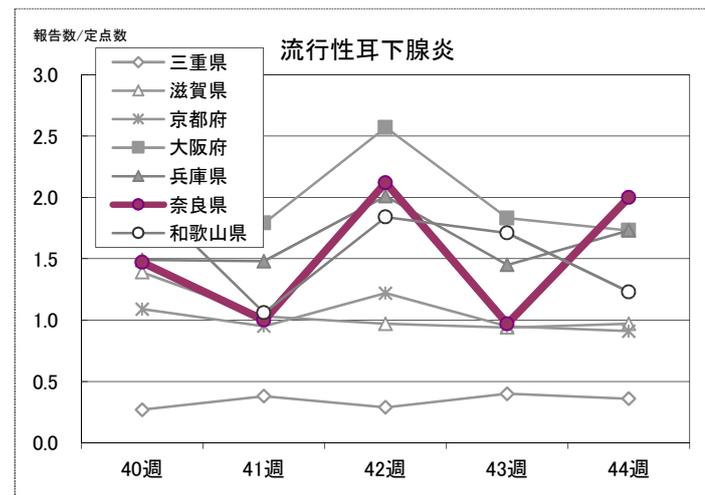
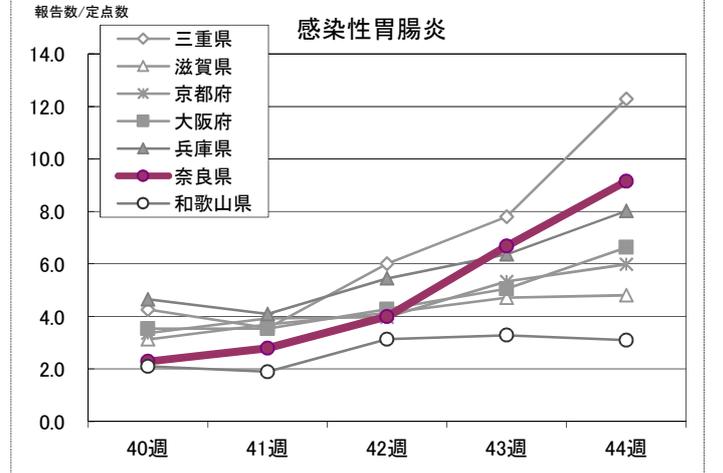
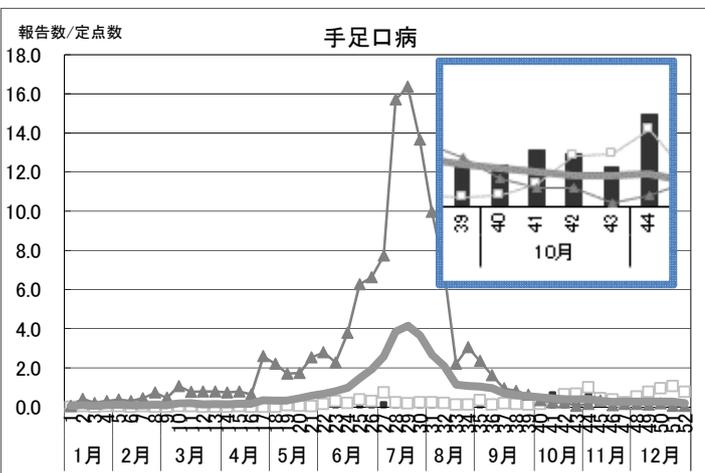
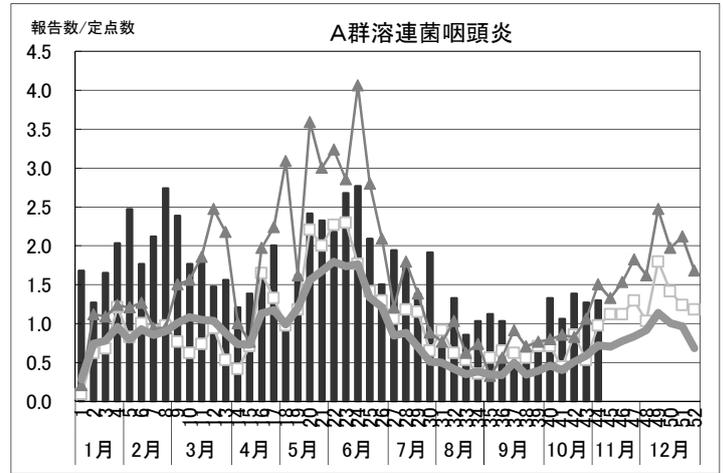
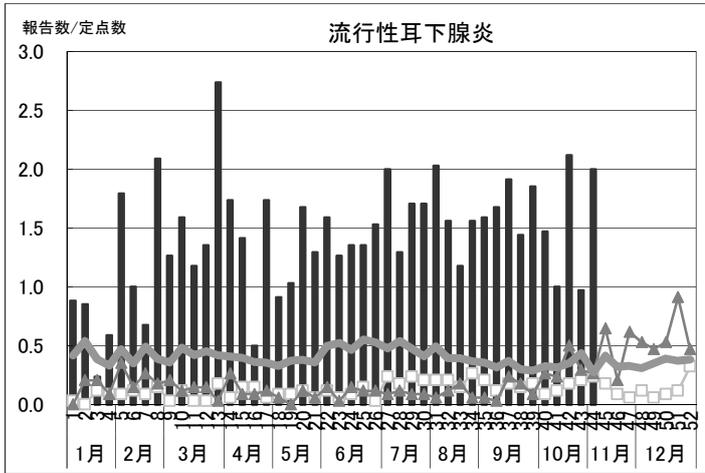
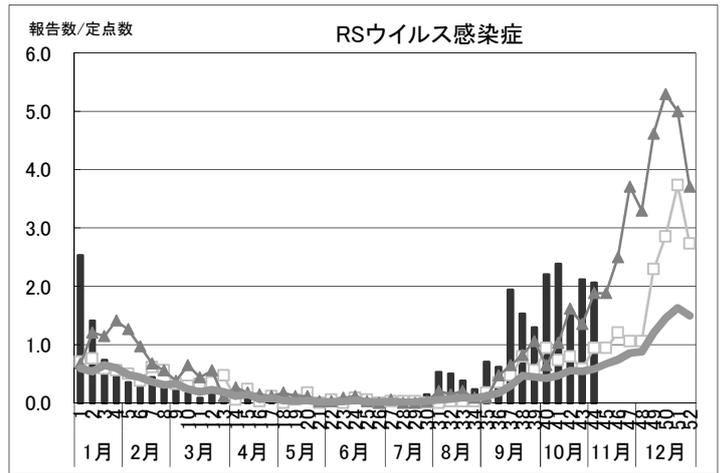
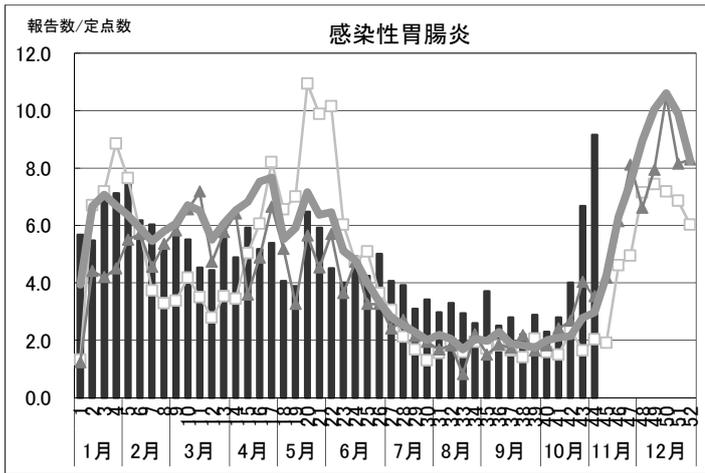
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計	
インフルエンザ	男												1			1						2	7766	
	女														1								1	7534
RSウイルス感染症	男	5	10	8	10	3	2															38	504	
	女	5	6	11	5	4			1														32	402
咽頭結膜熱	男		1	3							1											5	326	
	女		3	1																		5	301	
A群溶連菌咽頭炎	男			1	3	1	3	4	2	1	3	1	2	1								22	1313	
	女			2	2	2	2	1	3	4	1	2	2	1								22	1084	
感染性胃腸炎	男	1	5	20	15	14	18	16	15	8	8	4	6	6	11							147	3700	
	女		5	16	23	16	18	21	14	7	5	3	10	4	22							164	3310	
水痘	男							1		1	1											3	240	
	女							1														1	171	
手足口病	男		1	9	3	3	4				1											21	162	
	女		2	7	4	1	1	2		2												19	123	
伝染性紅斑	男				1					1												3	388	
	女										1											3	435	
突発性発しん	男		4	4																		8	405	
	女		3	2	2																	7	379	
百日咳	男																						5	
	女																						5	
ヘルパンギーナ	男					1																1	569	
	女						1															1	503	
流行性耳下腺炎	男			2	2	6	5	7	3	4	3	2	2	1	2							31	1152	
	女			1	2	6	5	7	3	5	4	2	2									37	979	
急性出血性結膜炎	男																						1	
	女																						3	
流行性角結膜炎	男															1	1					2	118	
	女															2	2	1	1			8	158	
細菌性髄膜炎	男																					1	10	
	女																						5	
無菌性髄膜炎	男																						8	
	女																						3	
マイコプラズマ肺炎	男		1	4	1		1							1								8	129	
	女		1	1																		2	122	
クラミジア肺炎	男																						1	
	女																						54	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						1	
	女																						45	

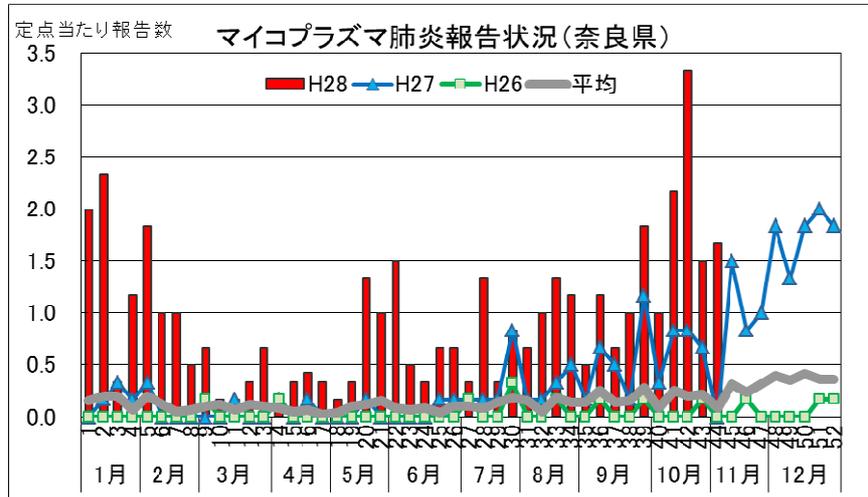
❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H28 ▲ H27 □ H26 〰 過去10年平均



マイコプラズマ肺炎流行中

マイコプラズマ肺炎の報告が、増加しています。昨年の秋から増加し、非常に多い状態が続いています。マイコプラズマ肺炎は、こじらせると入院加療が必要になります。ワクチンは無く、手洗い・うがいで予防するしかありませんが、抗菌薬で治療できます。長引く咳を自覚したら、医療機関を受診してください。



【マイコプラズマ肺炎は・・・】

晩秋から早春にかけて報告数が多くなり、罹患年齢は幼児期、学童期、青年期が中心である。本邦では従来4年周期でオリンピックのある年に流行を繰り返してきたが、近年この傾向は崩れつつある。

病原体は肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) であり、感染様式は感染患者からの飛沫感染と接触感染による。感染により特異抗体が産生されるが、生涯続くものではなく徐々に減衰していくが、その期間は様々であり、再感染もよく見られる。

潜伏期は通常2～3週間で、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などである。咳は初発症状出現後3～5日から始まることが多く、当初は乾性の咳であるが、経過に従い咳は徐々に強くなり、解熱後も長く続く(3～4週間)。特に年長児や青年では、後期には湿性の咳となることが多い。胸痛は約25%で見られ、また、皮疹は報告により差があるが6～17%である。喘息様気管支炎を呈することは比較的多く、急性期には40%で喘鳴が認められる。肺炎としては元気で一般状態も悪くないことが特徴であるとされてきたが、重症肺炎となることもあり、胸水貯留は珍しいものではない。

抗菌薬による化学療法が基本であるが、ペニシリン系やセフェム系などのβ-ラクタム剤は効果がなく、一般的には、マクロライド系のエリスロマイシン、クラリスロマイシンなどを第一選択とするが、学童期以降ではテトラサイクリン系のミノサイクリンも使用される。特異的な予防方法はなく、流行期には手洗い、うがいなどの一般的な予防方法の励行と、患者との濃厚な接触を避けることである。

* 学校保健安全法における取り扱い (2012年3月30日現在)

明確には定められていないが、条件によっては、第3種の感染症の「その他の感染症」として、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまでの期間の出席停止の措置が必要と考えられる。

(国立感染症研究所感染症情報センターHPより)

(奈良県保健予防課・奈良県感染症情報センター)